

乳酸菌生産物質、肌に効果

光英科学研が特許取得

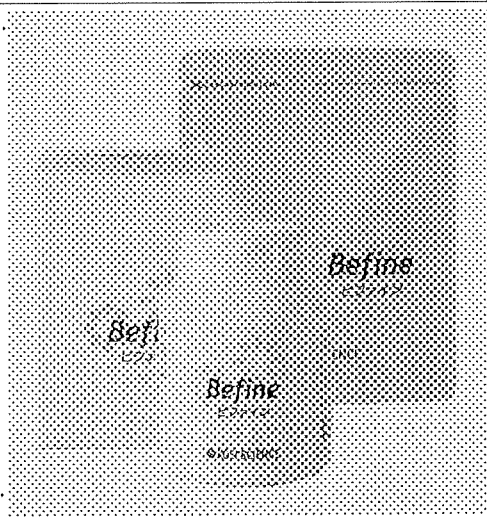
【川越】光英科学研究所（埼玉県和光市、小野寺洋子社長）は、順天堂大学と共同で「アクアポリン発現促進剤及び角化マーカー発現促進剤」の特許を取得した。同社が研究する乳酸菌生産物質を用いた細胞試験で、細胞の水の取り込みに関連するたんぱく質「アクアポリン」の発現を促進する作用を発見した。今後、肌の健康のための素材としての利用などを期待する。

光英科学研究所は10年以上前から城西大学などで行っていた研究の中で、動物（マウス）に紫外線（UV）などの刺激を皮膚へ与えた後、乳酸菌生産物質を与え

ると皮膚の状態が良くなる効果を発見。また同大との研究で肌の健康のカギとなる成分「トリノレイン」が同社の乳酸菌生産物質に含まれていることを

乳酸菌生産物質の研究成果を活用した、光英科学研究所の「ビプファイン」

既に発見しており、今改善に効果を発揮して回の実験で皮膚の状態を突き止める



た。その後、順天堂大に委託し、どのような細胞に乳酸菌生産物質が作用しているのかを研究。約半年の細胞試験で、アクアポリンの発現を促進する作用を発見した。

同社は乳酸菌やビプファインなどの有用菌が発酵過程で生み出す代謝産物である、乳酸菌生産物質が人体にどのような影響を与えるのかについての研究に取り組む。城西大と他の研究で共同特許を取得した経験があり、今回の取得につながった。小野寺社長は「乳酸菌生産物質に、さまざまな可能性が出てきている。今後、順天堂大とも共同研究などができれば」と期待を込める。